SMAC style

＃１：滑走、移動など行動に関する注意事項

- 滑走は１人ずつ行い、グループメンバー全員で滑走者を目視する。
- 滑走ライン、集合場所、エスケープポイント（途中で不測の事態があった場合の避難場所）を確認してからスタートする。
- 滑走するラインへまっすぐ入る。移動してからドロップする場合は、できるだけ尾根筋を移動する。
- 斜めへの滑走や大きく斜面を横切ることは避ける。
- 集合場所まで滑り切り、途中で止まらない。
- 転ばないように滑る。大きな刺激で雪崩を誘発する可能性がある。
- 斜面途中に人がいる場合は、近づかないようにラインをとる。
- 雪崩の危険度が高い場所は、急斜面、オープンバーン、ノール、風下、吹き溜まり、谷筋、雪庇の上下などである。
- 滑走する斜面までの移動は、できるだけ尾根上を移動し、斜面であれば前走者と同じルートを移動する。
- 危険と思われる斜面のトラバースは、間隔をあけて前走者について行く場合と全員で確認しながら１人ずつ行く場合がある。状況の変化や上部からの滑走者に注意する。

＃２：雪崩が発生し巻き込まれた場合の注意点

- 転ばないようにして雪崩の本流から遠ざかる方向（エスケープぽんとポイント）へ逃げる。
- 転んだ場合は、深く埋没しないよう、泳ぐような動きで浮上を試みる。
- 途中に岩、木、障害物がある場合は、つかまる努力をする。
- 無抵抗に流されてしまうと、デブリ（雪崩の末端）の深いところに埋まってしまうことになる。
- 大声を出して、仲間に自分の位置を知らせるようにする。
- 動けなくなった場合は、鼻や口に雪が詰まらないように両手で顔を覆い呼吸の確保をする。または、片手で反対側の襟をつかみ肘の内側で呼吸のための空間を作る。

＃３：雪崩発生後の捜索

- 状況を冷静に判断する。
- 雪崩状況と周辺状況を観察し、二次災害の可能性を考慮して、捜索、救出作業を行うか判断する。
- 他グループへの救助要請をする。
- 単独捜索の場合は、プローブを準備してからビーコン検索しショベル掘削を行う。
- 複数人捜索の場合は、リーダー、見張り役（二次災害）、連絡係（警察、パトロール、スキー場事務所）、捜索メンバーの役割を分担する。
- 雪崩に遭遇したグループへ捜索協力をする場合、生存者がある場合は、落ち着かせ、埋没者の情報（ビーコン装着の有無、人数、性別、ウエアの色など）を聞く。

＃４：ビーコン捜索方法

- 全捜索者のビーコンを受信に切り替える。
- 自動復帰（時間経過による送信状態に戻る）に注意する。
- 身体の前に持ち水平に構え、移動する場合は身体ごと向きを変える。
- ビーコンの捜索可能範囲はおおよそ 50m 以下なので、埋没予想地点があれば、速やかに近づく。予想できない場合は、デブリへ慎重に近づく。
- 単独の場合は、ジグザグに移動をする。複数の場合は、移動方向を定めてから 50m 間隔を保って移動する。
- ビーコンの電波は、約 1 秒間隔でリンゴ型に発信されている。
- ビーコン液晶画面の矢印と距離を頭に入れながら捜索（移動）する。
- 受信距離が 3m になったらピンポイントサーチを行う。雪面に近づけ十字法で規則正しく動かす。ビーコンの向きを変えないように身体の前から水平に動かす。
- 受信の距離が行きすぎたら目印を置いて戻る。
- 複数検索の場合は、発見したビーコンの電源を切るかまたは、検索解除してから次へ進む。

＃５：ビーコンを持っていない埋没者の捜索

- デブリの位置、装備品の近く（スキー、ストック、バックパックなど）をスパイラルプロービングする。
- 捜索者が複数の場合は、横並びで 3 点刺しをしながら捜索する。
- 装備品に触れたら必ず元の場所に戻す。
- 沢状地形では、カーブの外側、木の近く、岩の近く、デブリの先端に埋没の可能性が高い。

＃６：プローブ捜索方法

- プローブは、鉛直方向へまっすぐ刺す。
- ビーコン捜索最短距離からスパイラルプローブサーチ（25cm ずつずらしてスパイラル状に刺す）を行う。
- ビーコンで表示された最短距離（深さ）の＋20cm をプローブの目盛りを見ながら刺す。
- 何かに突き当たった場合は、プローブを抜かずに刺したままにしておく。

＃７：ショベル掘削と応急処置

- ヒットポイントから深さ約 2 倍の距離の谷側から掘り始める。
- 複数人で行う場合は、V 字ベルトコンベアショベリング（先頭を中心に左右に広がり逆 V 字型で最速で掘削を行い 30 秒で時計回りに作業位置を移動する）で掘削を行う。
- かいた雪は、斜面下へ投げる。
- 埋没者を見つけたら、まず口と鼻を探し出し、雪を取り除き気道確保をする。
- 呼吸が停止している場合は、人工呼吸と胸骨圧迫（心臓マッサージ）の心肺蘇生を行う。
- 胸が重い雪の塊で圧迫されていると呼吸ができない場合がある。
- 外傷の有無を確認。出血があれば圧迫して止血する。できるだけ身体をまっすぐ水平にしておく。谷側へ投げた雪で応急処置スペースを作る。
- 低体温症の対策をする。